神戸大学医学部附属病院

総合内科

指導担当医（役職）

乙井　一典（准教授）

実習概要

概要

総合内科の主治医団の一員として4週間過ごします。オーダー（投薬）は行いませんが、それ以外はほぼ初期研修医と同様に行動します。学生１人当たり患者さんを2～3人担当し、主治医団の回診やIC、チームカンファレンスに参加し、検査・治療計画の立案を学びます。日々のカルテ記載、モーニングカンファレンスでの症例プレゼンテーション、また内科救急での初期対応など、医師としての基礎体力の経験値アップを目指します。

医療面接

毎日1回は必ず担当患者を訪室し問診を行い、また内科救急、初診外来で病歴聴取を行います。患者とのコミュニケーション力を磨き、病歴聴取からの診断推論等を学びます。

身体診察

担当患者を毎日診察します。初回時のスクリーニング診察、日々の診察では個々の患者でポイントを絞った診察を行い、身体診察からの診断推論、治療経過の把握等を学びます。

また身体診察の一部であるベッドサイドでの簡易エコー検査(POCUS)の見学、簡単な手技を学びます。

カルテ記載

毎日、学生カルテに記載し、指導医が記載内容をチェックし指導します。初診時等の基本的なカルテ記載法、症例把握のためのポイントを絞った簡潔なカルテ記載を学びます。

症例プレゼンテーション

週２回のモーニングカンファレンスで、研修医とともに口頭で担当患者のプレゼンテーションを行い、基本的な症例プレゼンテーション法を学びます。

その他（特色など）

入院患者の疾患は多岐に渡り、また多疾患併存の患者が多く、個々の症例で疾患だけではなく、患者全体を診た診療スタイルを経験、学びます。

内科救急症例からは、症状、症候からの鑑別診断を医療面接、身体診察から学び、実際の検査・治療計画の過程を学びます。

mini-CEX(簡易版臨床能力評価)を外来患者、入院受け持ち患者で行い、医療面接、身体診察の評価、フィードバックを行います。

静脈採血やPOCUSなど、基本的な検査手技を学びます。

学生へのメッセージ

臨床実習１では医師としての基礎体力である医療面接や身体診察に加え、カルテ記載や症例プレゼンテーションを経験してもらいましたが、臨床実習２ではそれらの経験値アップを目指し、また基本的な検査手技を学んでもらいます。

特にPCC-OSCE対策にもなる症状、症候からの鑑別診断に対する医療面接、身体診察力アップを目指してもらいます。医師としての基礎体力をしっかり身につける期間にしてください。